

2020/10/12

(うとQ世話し「目的次第」なのかな?)

最近、ネパール語単語・短文掲示黒板を店頭に出すようになってから、日本語、英語をなるたけ使わずに、覚えてたのネパール単語・短文を使うようにしております。

「モ ホンシャ ジャヌ」(本社に行くぞ) とか

「モ タクヌン」(俺、疲れた) とか

「アラマイ チャ?」(元気?) とか

「モ ルパイヤ ラ ウーマン デレイ モンパルチャ」(私、金と女、大好きあるよ) とかです。

するとネパール従業員たちは、とても面白がりますし、親近感もかなり感じるようです。しかし、元々単語か短文しか喋れないので、それを補うために、ある工夫をするようになりしました。

それは、変化をつけたり、単語、短文の中により多くの情報を盛り込んだりするために(つまり、より意思疎通をはかり、コミュニケーションを円滑にするために)話す時には、リズムカルにテンポよく、成る丈語呂を併せたり、抑揚や強弱をはっきりつけ、少し大げさな振り(ジェスチャー)をつけたりしたのです。

例えば、一番後のネパール文の例だと親指と人差し指で「輪っか」を作ったり(お金マーク)胸の前に両手でおわん型、ドン、おしりの後ろに、これ又両手でおわん型、ドン(女性の体つき表現)をつけて腰を振ったりするジェスチャーをつけながら上記の文言を、ややオーバーアクセントをつけて言うわけです。

すると男性従業員達は益々喜び

「シャチュさん(社長の事)、ジョーク、ジョーク」

と大笑い。

(余談ですが、彼らは自分のことをシャチュさんと呼び、いつの間にか社長が社中になっており、無意識ながらも、「長」を「中」くらいに格下げしているようです(笑))

それで思ったのですが、手前味噌ながらこういった発想は、文法的に正しく完璧なネパール語を話そうと思っていたら、多分、出てこなかったと思います。いや、目的を「円滑なコミュニケーション」に替えていなかったら、絶対に思いつかなかったストーリー展開だと思います。

要するに、全ては「目的次第」なのかな?と思うようになりつつある、今日この頃です。